

# 市民研 通信

No.15

2012年12月

通巻143号

## ●市民研ホームページに掲載中の最新の論文

～すべてどなたでもダウンロードできます

### 巻頭言

2013年からの活動にご注目・ご支援を 上田昌文(市民研・代表)  
年の瀬に～運営会議たより 柿原泰(市民研・理事)

### 市民科学談話会での発表(10月19日)をふまえて

「東日本大震災以降の我が国エネルギー政策の課題」  
馬上文司(千葉大学法経学部特任講師)

### 報告

「シンポジウム 福島原発で何が起きたか—安全神話の崩壊—」  
(その1+その2) 永添泰子

今年もサイエンスアゴラに出展

横山雅俊(市民研・理事)

### 翻訳& 解題

ベラルーシで実際に使用されている放射線教育用教科書について  
吉田由布子(「チェルノブイリ被害調査・救援」女性ネットワーク、  
市民科学研究室・低線量被曝研究会)

### ●会員向け送付資料

- ・エッセイ「塩麹から発酵の世界をのぞいてみると」(上田昌文)
- ・毎月連載『企業診断』環境ニュース 2012年1月～12月(上田昌文)

### ●市民研が主催・共催するイベント

～詳しくはホームページにてご確認ください

- ・1月26日(土)(株)アイカムの「薬」映像作品の上映会
- ・2月3日(日)シンポジウム  
「放射線影響の真実に迫る～最新の実験研究からチェルノブイリ26年の小児健康影響まで～」
- ・2月10日(日)お味噌作り講座
- ・2月23日(土)シンポジウム  
「ナノ素材の健康リスクをどうとらえ、どう対処するか」
- ・4月6日(土)「語る+聞くりプロダクションのいま」第4回  
産婦人科医の竹内正人さんを招いて

## 2013年からの活動にご注目・ご支援を

上田昌文(市民研・代表)

市民科学研究室では、2012年6月に実施した総会(2011年度総会)から3年目にあたる2015年総会において総括することを想定した、思い切った取り組みに着手しています。この約3年間に、調査研究や運営の体制の大幅な強化と会員数の増進を目指します。具体的には、(1)代表の上田をはじめとする7名の理事メンバーがこの期間に取り組みたい(実現したい)課題と目標を掲げ、そのプランを示すこと[2013年1月に発行する『年次報告書』において提示いたします]、(2)事務局を週4日勤務体制にすること[新事務局の松本がこの10月半ばから月火木金で勤務しています]、(3)認定NPOの資格を取得し、寄付に対する税制の優遇措置を受けられるようにすること、(4)各研究会のメンバーを強化して調査内容を精鋭化するとともに、定例会での報告・討議事項を常時公開し、各テーマに関心を持つ人がいつでもフォローできるようにする、(5)これまでの「市民科学講座」「市民科学談話会」に加えて、大型のあるいは連続的な、あるいは他団体との共催の講座、セミナー、シンポジウムなどを精力的に入れていく[左記イベント及び記参照]、(6)これまでの記事論文の無償公開に加えて、U-streamなどネット配信を活用してより多くの人に情報を提供し双方向の議論ができるようにする、(6)事務所や他団体との共催でのキッチンスタジオ、集会場などを生かして、より幅広い層の人と交流できるようにする、などです。

特に、2013年1月に正式の案内をさしあげますが、(5)に関連して2013年4月から開始する「市民科学研究室ゼミナール」は目新しい企画で、少人数ながら(10人前後)、「市民の科学」を追求するのに必要だと思える基礎的な素養や知的技能を講師(上田)ともどもじっくりと学ぶ通年(隔週・夜3時間、年20回)の講座です。テーマは、「統計学と疫学を学び直す～科学論文を正しく読み解くために」「住まいと土地は誰のものか?～絶対的私有を超える住環境政策を求めて」「リスク論の最前線～基礎概念から最新の政策動向まで」「火育、水育、土育、食育、体育…(学校教育を変えるための)生態的教育の構想」「1001の事例から学ぶ“科学技術と世界史”」「科学技術文明批判の行方～マンフォード、シャルガフ、モラン、ベリーの批評装置」などを予定しています。■

## 年の瀬に～運営会議たより

柿原泰(市民研・理事)

12月15日、市民科学研究室の恒例の行事、クリスマスパーティーが盛況のうちに終わりました。ちょうど翌日に総選挙の投票日を控え、また当日は福島県郡山で開かれていたIAEA(国際原子力機関)福島閣僚会議、そしてそれに対抗して企画された脱原発世界会議などの催しがいくつも重なっている日でもありました。パーティーも終わり、いよいよ今年も残すところあとわずかとなりました。パーティーでは時間がなくなりご挨拶できませんでしたので、通信の紙面を借り、来年に向けて、一言申し上げます。

市民科学研究室では、月に1～2回、運営会議を開いて、諸活動の進捗状況の確認、今後の企画の準備などについて、代表理事の上田、事務局員、2ヵ月ごとの担当理事で打ち合わせを行なっています。私は10～11月の担当理事でした。

市民科学研究室の活動の看板のひとつは市民科学講座ですが、昨(2011)年3月の震災以来、「東日本大震災を考える」というシリーズの市民科学講座を続けています。市民科学研究室で取り組んでいるテーマは、多様であり、震災に関連するテーマばかりではないのですが、これからも多面的なテーマでこのシリーズを続けていく必要があるのでは、と考えています。ともすれば震災発生から1年9ヶ月が過ぎ、問題意識が薄れてきている人もいないのではないかと、危惧しています。私自身は低線量被曝研究会のメンバーですので、とりわけ放射能や原発をめぐる問題にとくに力を注いでいきたいと思っています。2月3日には、シンポジウム「放射線影響の真実に迫る」を開催しますので、ふるってご参加ください。

NPO法人としての組織面での整備、さらなる充実について、理事会や運営会議でしばらく前から話し合ってきた課題のひとつに、認定NPO法人化の申請があります。検討してみると、簡単に実現できるわけではないこともわかってきたのですが、今後実現すべく準備を進めているところです。

すでに市民研の会員になってくださっているみなさまはもちろん、そうでない方も、講座や談話会、通信の記事(ウェブにすべてアップされています)、ブックレットや報告書などに関心を持っていただけた方には、今後もさまざまな活動を展開していきますので、どうぞ2013年も市民科学研究室の諸活動への積極的なご参加を、そしてできれば財政的な支援もよろしく願いいたします。■